

ご 挨拶

近畿、中国地方の梅雨明けを迎え列島に本格的な夏が訪れました。これまで九月に開催されることが多かった社会人大会ですが、本年度は埼玉県所沢市民武道館をお借りしての八月開催となりました。猛暑における感染症対策を十分講じての全国大会となりこれまで以上に準備が大変であろうかと思われませんが、ご協力をいただきました皆様、日本剣道協会役員の皆様にはこの場をお借りし心より感謝申し上げます。フランス、パリでのオリンピック、パラリンピックも開かれスポーツへの関心がより一層高まる 2024 年ですが、健康志向の地域社会で大きなスポーツイベントが開かれることは青少年、社会人を問わず、一流のプレーを直に観戦できる最良の贈り物でありましょう。近隣、所沢市民、埼玉県民のみなさまに剣道へのご関心、ご理解をいただければ幸いです。

日本で進む少子高齢化社会はこの先 20 年、若年層の人口が減り続けるという問題を抱えています。不確実な未来像において多くの情報をスクリーン、バーコード、QR コードといった壁の向こう側にしか見つけることの出来ない日常生活では周辺機器の取り扱いに不慣れであればあるほど精神的、社会的にその壁の内側に閉じ込められてしまい不安が増します。しかし、情報が遮断された状態でも、結論が思うように導き出せない過程でも、人が呼吸を繰り返す限り可能な精神活動、身体活動を妨げるものではないという現状の確認が大切です。また、筋力や記憶力の衰えは加齢に伴う自然な過程であり、それらを無理なく受け容れることができるようゆるやかな成熟を心掛けたいものです。

今年始めに TV ゲームへの進出を果たした剣道はこの先更に若年層での認知度を高めることが出来るよう期待します。呼称、名称、文字、特性、一般性の中で同化と異化を繰り返し、戦う為の武術に留まらず、苦境にあっても壁の向こうに明るく確かな未来を描く創造性とそこへ向かう主体性にアイデンティティをもつものであって欲しいと思います。

最後になりましたが、本大会に参加される皆様の社会人としてのご活躍と明るい未来、大会の無事成功をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

令和 6 年 8 月

日本武藝剣道三代宗家
祝 嶺 正 献